

コンセッション研究部会（第5回）

日 時：9月2日（水）15：00～17：00

会 場：イベント学会会議室

出席者

- 〔研究員〕小松史郎（部会長）、松本眞一
- 〔オブザーバー〕梅戸敦（イベント学会）
- 〔事務局〕内田なお子、加藤淑子、小林政則（事務室長）



【資料】

- ・新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議資料
- ・新国立競技場再検討の基本方針の問題点 ・業務要求水準書
- ・コンセッション研究部会の概要 ・「月刊体育施設」記事 ・間野教授コメント資料
- ・研究大会関連資料

おもな議題

- ・最近の政府の新国立競技場整備計画案の動向 ・基本方針の問題点
- ・コンセッション研究部会の今後の進め方

おもな内容

■イベントサロン2015名古屋概要説明（梅戸事務局長）

研究大会関連資料にて当日のプログラム等の開催概要を説明。

[質問および意見交換]

- ・当日の全体プログラムが決りつつある段階で、後援、協力、愛知県副知事の挨拶等が決定している。研究発表も9月2日現在で11題集まっている。新聞、雑誌等のメディア取材も予定している。無用な心配かもしれないが、スタジアムイベント研究会の発表については、新国立競技場に関してメディアから好ましくない質問等が生じる可能性を若干懸念している。（梅戸）
- ・この研究会は、新国立競技場をはじめとする全国のスタジアムにおけるイベントの可能性を研究しており、新国立競技場の建設とは直接的な関わりはないのでその点は問題ない。研究部会として、新国立競技場のあるべき姿をメディアに語ることは、とても喜ばしく意義あることだと考えている。（小松）
- ・新国立競技場がどのような形で建設されるかを避けてスタジアムイベントは語れない部分もある。イベント学会としての考えを、メディアに発表することは逆に望ましい。（松本）
- ・研究会ではメディアの取材にも対応し、インタビューも受ける方向性で検討する。研究大会当日は、研究会のパンフレット等の配布も考えているが、受付での配布には対応していただけるのか確認したい。展示ブースの扱いについても教えていただきたい。（小林）
- ・研究発表をする会場であれば、パンフレットや資料の配付は可能だと考える。今回は展示ブースの出展は計画していない。（梅戸）
- ・研究会のパンフレット、報道資料、および発表者の資料等も受付でぜひ配布していただきたい。（小林）

■ コンセッション研究部会の今後の進め方（小松部会長）

「月刊体育施設」9月号に掲載する新国立競技場再検討の基本方針への提言を紹介。研究大会での発表について他の研究部会を含めた構想を検討。

[意見交換]

- ・新国立競技場を単体ではなく外苑を含む周辺エリア全体で考えようとしていることは、3つの研究部会の共通点になっている。ただ、この研究部会では屋根の必要性にはこだわりたい。アスリートファーストはいいが、セカンドは観客であり、観客が快適な空間でなければ21世紀の施設として間違っている。(小松)
- ・今行われている公募の結果発表が11月16日で、実施設計を決定するまでに1年の時間があるので、提言が反映されるようにしたい。(松本)
- ・1550億円でオリンピックのためのスタジアムを建設して、開催後はロンドンのように解体して新しいスタジアムを建設しようと考えているのではないか。それでは建替え期間の収益はゼロになり、解体する費用とさらに新たなスタジアムの建設費が必要になる。まったくムダな計画だと考える。しかし、既に簡素案で建設する方針は決定しているので、今後ビジネスプランを出す企業や団体に、稼げるスタジアムの考え方を提言したい。(小松)
- ・日本人は一度建設したものを取り壊して新たに建てるという発想にはおそろくならない。もったいないからそのまま使う時にサービスを持続するために何を付加していくのかを考える必要がある。(松本)

■ 今後の活動に関する考え方

[意見交換]

- ・これから提言することに対しては、必ずエビデンスが求められる。来年度以降はエビデンスを作成していきたいが、ある程度の予算がなければ実現は難しい。予算を確保した上で、活動を継続することを考えたい。(小松)
- ・事務室としては総会等の機会を通じて各部会長から予算の必要性を提案していただきたい。その上で予算をどのように確保するのかを検討していきたい。(小林)
- ・次回の研究会は、早稲田大学スポーツ科学学術院の間野義之教授の講演を計画して、9月29日または30日でアポイントが取れている。明日の活動連絡会議で、研究会の皆さんの都合をうかがい、いずれかの日程に実施したいと考える。(小松)